

令和8年度入学式 式 辞

桜はようやくその盛りを過ぎるも、新緑が野に街に萌え始め、一年で最も美しく、心躍る季節が到来いたしました。

本日、東京都立小金井北高等学校第四十七回入学式を挙げるに当たり、御多忙にもかかわらず、御来賓の皆様を始め、多くの保護者の皆様の御列席を賜り、誠にありがとうございます。教職員を代表して、心より御礼申し上げます。

保護者の皆様、お子様の御入学、おめでとうございませう。お子様が、自分の力を信じ、日々弛まぬ努力をもって入学者選抜を突破し、小金井北高等学校に入学されたこと、さぞお喜びのことと存じます。

今、ここにいるお子様の笑顔を目の当たりにし、保護者の皆様の愛情と御苦勞とに、深い敬意を表する次第でございませう。

ただいま入学を許可いたしました240名の入学生の皆さん、御入学おめでとうございませう。

本校は、昭和55年（1980年）に開校し、今年度で47年目を迎える高校です。これまで、「創造」、「自律」、「努力」を教育目標に、すべての教育活動を通じて、生徒の高い進路希望を実現してまいりました。そして論理的思考力、実践的なコミュニケーション能力を伸長させて、将来、国際社会にも貢献できる生徒、また、思いやりの心と高い規範意識を持ち、自他を尊重し、ともに助け合える生徒を育て、次代の日本を支えるリーダーの育成に取り組んでまいりました。

そうした本校の卒業生は、政治や経済、文化・芸術、教育など、社会の様々な分野の第一線でも活躍しています。

さて、ここで入学生の皆さんにお話しておきたいことが一つあります。

それは、本校での三年間の高校生活において、自らの器を大きくすることに取組んで欲しいということです。皆さんは現在でも、そして皆さんが社会の第一線で活躍する頃には一層確実に、世の中の大きな変化のうねりに直面することになります。それは、グローバル化の進展、産業構造の転換、少子高齢化、AIの飛躍的な進化など枚挙に暇がありません。仕事では、上司や同僚と英語、あるいは英語以外の言語で打合せをしたり、資料を作成したり、交渉したりする、つまり「英語ができる」ではなく、英語を手段として何ができるのかが問われる時代。また、AIの発達・普及によって、今は人間が行っている仕事の多くが、次々とAIに取って代わられるという時代。皆さんが生きていくのは、このような激動の時代です。そしてこのような時代を生きていくために必要なこと、それが自らの器を大きくし、十分な実力と豊かな人間性をもって課題に対応できるようにしておくということなのです。

では具体的にはどうすれば良いのでしょうか。その答えは、「本校での三年間の高校生活に、日々全力で取組むこと」です。より具体的に三点挙げます。まず一点目は「授業で勝負」です。日々の授業に真剣に取り組んでください。予習・授業・復習を通してはがれにくい知識や論理的、科学的な思考力を身につけて、確かな学力の礎とする。二点目は「教養で勝負」です。読書や様々な知的体験を通して教養を高め、常に好奇心と批判的視点をもって物事に

接し、他者との対話の中で自らの考えを構築する態度を身に付ける。三点目は「部活で勝負」です、部活動では、互いに切磋琢磨し合いながら、目標を達成するまで決して諦めることなく果敢に挑戦していく力を身に付ける。部活動以外でも、学校行事では、友人と協働しながら企画・運営に取り組み、達成感をもって成し遂げる力を身に付ける。それ以外にも趣味やボランティア、地域活動などに全力で取り組む。これらの取組が皆さんの器を大きくしていきます。このようにして、皆さんが手に入れた大きな器は、本校での三年間のみならず、卒業後も、更なる学習や社会での体験から得られたもので満たされ続けていくことでしょう。皆さんが、底が広く、そして十分な高さのある、大きな、そして立派な器を手に入れられることを切に願います。

最後に、保護者の皆様にひと言申し上げます。本校は実績や伝統に安住することなく、さらに教育活動の水準を高めてまいります。激変する社会情勢のもとで、多くの困難や制約も予想される中ではありますが、御協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上をもって式辞と致します。

令和八年四月七日 東京都立小金井北高等学校長 渋谷 寿朗